



復刊第131号
題字 吉岡弥生

巻頭言

副会長

野呂幸枝

第37回日本女医学会定時総会は大成功裡に終了いたしました。

総会議事も新しい方法で順調に、スツキリと進行了しました。担当支部の香川県の先生方は少数にもかかわらず大変行き届いた心暖まるご接待、運営をしていただき感謝いたしております。

特に香川県女医学会会長の松浦俊子先生の社会的なお力の絶大さに感激いたしました。

記念講演では佐藤和子先生の栄養学、朝倉攝先生の演劇芸術の素晴らしいスライドを見せていただき、それぞれの道は異っても強い情熱に感銘を受け時間も忘れて拝聴、拝見いたしました。私たちがこの情熱と粘りに、理性を加えて社会に輝きたいものでございますが、その源となる健

康を保つため佐藤先生の栄養学も十分研究し実践いたしましょう。

国会では日本の進路を定める重大な審議で大波乱の状態です。国民全員も真剣に考えねばなりません。いずれの場合でも平和を保ち、生きて活動するよい環境を作らねばなりません。私たち

は女医としての職務を持ち人々の心身の健康にかかわり、社会の疾病をも考慮し、地球の安全にも配慮できる恵まれた知識を持つています。また多く



グアテマラ・ティカル神殿1

の方たちが実行し活躍していらっしゃいます。女医学会の先生方のなご一層のご活躍を期待しています。
私の関係している女子短大生にアンケートで意見をききました。PKO協力法案について関心がない、ごちゃごちゃやっているようだが何か解らない、新聞を読まないしニュースも聞かないから知らない、という無関心派が五〇%を超えました。日頃私の講義では「よく観察する。よく意見を聞く。そしてよく考えるのが大学生である」と強調していますが、彼女たちの半数は夏休みのアルバイトと遊びの計画で頭は一杯のようです。
先日グアテマラで貧しい子どもたちの姿を見て来たので、一層、日本の子どもたちの幼児教育について考えさせられています。幼児教育、思春期教育についても女医の力が大きいと考えます。女医学会の先生方のご活躍の場がここにも広がっているでしょう。

目次

巻頭言.....	野呂 幸枝 (1)
第37回日本女医学会定時総会 会長挨拶.....	山崎 倫子 (2)
定時総会議事録.....	(3)
各賞と研究助成授与	
吉岡弥生賞を受賞して.....	稲垣千代子 (4)
吉岡弥生賞授賞に際して.....	高柳 泰世 (4)
荻野吟子賞を受賞して.....	加藤 竺子 (5)
荻野吟子賞をいただく.....	岩崎和佳子 (5)
学術研究助成をいただく.....	内濁 安子 (6)
学術研究助成を授与されて.....	西嶋 攝子 (6)
学術研究助成を授与されて.....	澤口 聡子 (7)
学術研究助成金をいただく.....	高原 照美 (7)
学術研究助成を授与されて.....	玉井美妃子 (8)
学術研究助成をいただく.....	今城 純子 (8)
第37回日本女医学会総会の開催について.....	松浦 俊子 (9)
第37回日本女医学会総会を終えて.....	大内 通江 (10)
観光コースに参加して.....	都崎多美恵 (11)
香川総会に参加して.....	井上 柳子 (11)
第22回国際女医学会議	
第22回国際女医学会議に出席して.....	山崎 倫子 (12)
グアテマラの子どもたち.....	野呂 幸枝 (13)
パーテイと観光.....	佐藤千代子・白橋 美笑 (14)
第22回国際女医学会議に出席して.....	平敷 淳子 (15)
メキシコ・ユカタン半島の旅.....	森田 和子 (16)
カリブ海クルーズとマイアミ.....	青木 豊子 (17)
理事会議事録.....	(18)
評議員会議事録.....	(19)
会員動静.....	(20)
編集後記.....	(20)

場所 京都

原案どおり可決

第五号議案

次期及び次々期総会開催地について

次期開催地 京都支部
山崎倫子
次々期開催地 東京

原案どおり可決

表彰

- (1) 吉岡弥生賞受賞者
稲垣千代子、高柳泰世
- (2) 荻野吟子賞受賞者
岩崎和佳子、加藤竺子
- (3) 学術研究助成金授与者

今城純子、内湯安子、澤口聡子
高原照美、玉井美妃子、西嶋攝子
閉会の辞 野呂幸枝

午後三時閉会
議長録が正確であることを証する
ため議長及び議長録署名人の署名捺
印。

平成四年五月二十三日

- 議長 斎藤 歌子
- 上村 栄子
- 関根 みよ
- 大橋 鎮子
- 田原 順子
- 議長録署名人

各賞と研究助成授与

吉岡弥生賞を受賞して



大阪7支部

稲垣千代子

山々の緑も美しい五月二十三日、
坂出市で開催された日本女医学会総会
にて吉岡弥生賞を頂戴致しました。
思いも掛けぬ光栄に浴し、改めて先
輩諸姉の開かれた道、建てられた標
を思い、さらには私どもの在り方に
も思い至る機会を与えられました。
吉岡弥生先生のお名前やおよその
ご業績は存じあげておりましたが、

今回、東京女子医科大学小史(中央
公論事業部)、現代日本医療史(川
上武者、勤草書房)などで日本の女
子医学教育および医療史全体の中
のご活躍を辿って見ますと、改めて
先生の情熱溢れる開拓精神と、これ
に裏付けられた節度ある行動に深い
感銘を覚える者でございます。
現在の我々は、年々豊かな環境で

吉岡弥生賞推せんについて

平成四年吉岡弥生賞授賞の適格者を、本会理事または
支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。
締め切り期日は本年十二月二十五日までに願います。
なお次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員。
- ロ 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

総会会場の壇上で、あてやかにも
お美しい山崎倫子会長のご紹介くだ
さる授賞理由を伺いながら、まだま
だ努力が足りないかと自戒するひと時
でもありました。価値ある賞を賜わ
り、皆様のご激励に心から感謝いた
します。

吉岡弥生賞授賞に際して

女医の感性をもって



愛知県支部

高柳泰世

私の尊敬するわが日本女医学会愛知
県支部長森川みどり先生が今から
二十三年前の昭和四十四年五月十日
に第一回吉岡弥生賞を受賞になら
れました。その伝統ある女医として

最高の名譽である吉岡弥生賞を私も
頂きまして、感激しているところで
ございます。
一 開業医のささやかな仕事がこの
ような形で評価され、色覚異常が正

しく理解される機会を作って頂きま
したことに、ご推薦頂いた先生方、
ご審議下さいました先生方に心から
感謝申し上げます。
身体障害者の社会参加の鍵を私ど
も医師は握っております。身体的欠
陥を見出して、それを患者に告げる
ことは出来ませんが、その後即ちその
人の社会適応能力までコメントする
ことは出来ないかと考えております。
今まではそれが医師の権限で出来
ると考えられていたようです。
特に伴性劣性遺伝である先天性赤
緑色覚異常は、視力・視野とも色覚
正常者と何ら変わる事無く、学問的
にはその選別能が優れていると評価
されている「石原式色覚異常検査表」
で検出され、本人はもちろん、保護
者も教師も気づかない程度の軽度の
色覚異常まで学校保健のなかで強制

的に「異常」として拾い出されてき
ました。

昭和四十八年に開業し、学校医を
拝命して初めて色覚異常者に対する
いわれなき差別を知り、女性の一〇
%に見られるキャリアのほぼ五〇%
の母親が「自分のせいで子供が色覚
異常になり、将来にわたって差別さ
れなければならぬ」と悩んでいる
のを知りました。その証左に全国四
百八十四大学の入試要項を調べまし
たと。昭和六十一年まで国立を
初め教育畑では八〇%前後が「成績
の如何に拘らず色覚異常者は不合格

とする」と入試要項に明記されてお
りました。

私どもの提言でそれは今ゼロにな
っております。五六%も制限をして
おりました医学部も弘前大学だけに
なりました。
私も医師は患者の身体的特長を
診てある状況を告げた時、同時にそ
れを背負ってどう社会を生きていく
かまでアドバイスして初めて患者を
診たといえるのだと思います。
そこに気が付くことが出来たのは
女医の感性があったからと感謝して
おります。

荻野吟子賞を受賞して



福岡支部

加藤竺子

このたびは、荻野吟子賞を頂き大
変光栄に存じます。

私ごときがこのような立派な賞を
頂くに値するかどうか、大変恐縮致
しておりますが、ご推薦頂きました
山崎倫子会長をはじめ、選考委員の
諸先生に、厚くお礼を申し上げます。
これからはこの賞の名に恥じない
ようより一層の精進をすべく、私の
心の誇りと致したいと存じます。
考えてみますと一八八五年、荻野
吟子先生が日本で公許女医第一号に
登録されて、百年近くが経過致しま
した。この間、日本の医学界での女

性の医師の進出は目覚ましく、既に
医学部学生の二〇%を越えていると
のこと。頼もしい限りです。偶然に
も、今朝のテレビで奈良時代の親王、
長屋王の邸宅の木簡の中に二人の女
医が存在していた記録が、発見され
たとか……太古の時代にもそれなり
の役割を担っていたのだな……と
強い感銘を覚えました。
四国での総会の翌々日、日本を出
発致しまして、ブラジルで開催され
ている環境サミット関連の会議に出
席し、昨日帰国致しました。
いまや、地球環境問題は避けて通

荻野吟子賞をいただき



大阪10支部

岩崎和佳子

このたびは思いもよらない名譽あ
る荻野吟子賞をいただき、誠にあり
がとうございました。

私は戦後の混乱期から今日迄、わ
き目もふらずに駆け抜けて来ました
が、幼い頃、父に「五十歳代からは、
今まで生かされて来たお札に何か一
つでもボランティア活動をしなさい」
と言われていた事を、ふと思ひ出し
ました。父は、私が医学に進む事を
導き、また大阪YMCAの創始者の
一人で熱心なクリスチャンでもあり
ました。
そんな折、学会で失明予防の報告
を聞き、南太平洋地域の医療の恩恵

に恵まれないでいる人々が大半いる
ことに気がつき、私の出来る範囲で
何とかしようと思ひ立ち、出身校で
あります関西医科大学の宇山昌延眼科教
授に相談いたしました。先生は、そ
の趣意に心よく賛成され、あつかま
しくも先生に代表幹事の労をお取り
いただきまして、一九八四年一月に
「バヌアツに医療を送る会」を有志
で結成いたしました。
その後年二回、一回につき二週間
の期間を、眼科のいないバヌアツ共
和国で診療活動を続けて参りました。
この活動も九年目を迎へ、派遣隊は
十六回目を迎えています。これま

で続けてこられましたのも一重に、私の考えに賛同していただけた周囲の皆様のおかげです。この医療協力も、初めは眼科だけでしたが、その後歯科の参加が加わり、今は合同で行っております。

ほんのふとした事からこの国の人の人とかかわり合いが出来ましたところ、私の住んでいる日本社会を外から眺める機会ができました。そして、戦後半世紀が過ぎようとしてい

この国の生活状態は、物資不足の面から見れば貧しくも見えませんが、家族の絆は強く、部族の団結は固くそして敬びは等分に分ち合い、悲しみも等分に負担している有様から愛というものは二倍、三倍にしている力があり、悲しみは分かち合ってお互い励まし合い立ち直ることだと改めて教えられたのでございます。

また一九八九年から青年海外協力隊がこの国にも派遣され、農業や手芸、生活指導等に力を入れ、住民と共に生活しておりますので、住民とのコミュニケーションも大きく、その力を私たちは借りる事が出来ますので、以前より活動がしやすくなりました。以前より活動がしやすくなりました。以前より活動がしやすくなりました。



東女医学内支部 内湯安子

▼学術研究助成を授与されて

お互いに助け合うことが出来る事は、すばらしいことです。これこそ人類愛につながるものだと思いますので、私も若い医局の先生方や看護婦等の医療従事者に積極的に参加してもら

このつたない活動に對しまして、身に余る荻野吟子賞をいただき、心が引き締まる思いがいたします。この栄光もひとえに、会の趣意に賛同していただき、ご協力していただき

のデータをもとに新たな抗体の発掘や新しい抗体の作製ができたこと、インスリン、インスリンレセプター、インスリン抗体、その抗イデオタイプ抗体のそれぞれの相互関係をあきらかにできたこと、昨年よりこのインスリン自己免疫症候群が、HLAと一〇〇%相関するという発見を得ることができたこと……

今述べましたことは、私一人でできることではありません。私にその技術を伝授して下さいました先生方、今、想いがかへても多くの先生のお名前



兵庫支部 西嶋攝子

▼学術研究助成をいただいて

このたび日本女医学会から第12回学術研究助成を頂くことができ大変光栄に存じております。

も皮膚の細菌と感染症を主な研究のテーマとしてまいりました。従いましてこれまでに皮膚の細菌感染症に對して多くの新しい抗生物質のトリアールを行ってきました。優れた抗菌力をもつ新しい薬剤の誕生とともに、一方では薬剤に耐性の菌もつきつきと出現してきます。皮膚の細菌

荻野吟子賞推せんについて

平成四年荻野吟子賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。

締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せん理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもつて提出下さい。

感染症の主な原因菌は黄色ブドウ球菌であるため、多剤耐性(あるいはメチシリン耐性)の黄色ブドウ球菌(MRSA)の存在にはかなり早くから気がつき、また心配しておりました。

そのような時、皮膚科の入院患者がMRSAによる敗血症を合併して死亡しました。この患者はステロイド剤を外用と内服で投与されており、またかなりの高齢者でもありました。同室の患者の皮膚からMRSAが検出されており、院内感染が強く疑われましたが、証明することは出来ませんでした。

このことが大きな動機となり、院内感染防止対策の必要性を痛感し、私に出来る範囲で努力してみたいと考えた次第です。



石川支部 澤口聡子

▼学術研究助成を授与されて

のささやかな仕事です。こしでも充実したものになるよう、共同研究者と

ミトコンドリアは独自の核酸と蛋白質合成系をもつ細胞内小器官であり、同時に染色体に依存しない核外の遺伝子として特異な存在である。高等哺乳動物のmtDNAは卵母細胞によってのみ継代し遺伝子内組換えが稀である為一般的に母性遺伝指標とされる。ヒトのmtDNAは既に全塩基配列が決定され、法医学領域において母子の取り違え・嬰兒遺棄等母子鑑定母系親族鑑定・人種への個人帰属性調査・個人同定にその多型検出法が応用されている。現在日本の法医学関係諸機関で施行されるmtDNAの多型検出法は、RFLP(エンザイムモルフ)・PCR法によるノンコーディングリージョンにおける塩基対欠失の判定・超可変領域に對するPCR法施行後の直接塩基配列決定の三種類である。モルフ・直接塩基配列決定の二法は個人同定分野で現在既に応用される。mtDNAの細胞質遺伝子としての付帯化に關しては諸研究の進展を待ち法医学実務分野への応用にも慎重を期すべき時期にある。

通常の親子鑑定では子の認知に關する父子関係存在確認を求められる場合により母子関係存在確認・母子関係確認が必要となる。このため、母子関係父子関係の双方鑑定を同時に可能とするプローブの開発を本研究の目的として仮設している。

核遺伝子系とmt遺伝子系とは細胞内において物理的隔たりがあり、互いに独立して動くものとされてきた。しかし最近mtDNAの非翻訳領域を介する両遺伝子系の協調発現が指摘される。この二重支配域のmtDNA配列に着目し、この部分の増幅産物をプローブとするザンプロット法を施行することにより、母子関係父子関係双方同時鑑定の可能性を探索した。塩基配列決定はホモロジーサーチに依存し、核DNAと呼吸鎖合成酵素に關与するmtDNA非翻訳領域の相同部にmtDNAと核DNAの重支配地域を想定した。この二重支配域DNAに多型を検出し得たとしても、このプローブによっては母子関係の確度と父子関係の確度とは

必ずしも等価に得られない。本実験におけるミトコンドリア異質細胞性の不安定性について十分な考慮が与えられていないため、鑑定が多世代に渡る場合その適用に注意が必要になる。さらにmtDNA上の非同義置換とその安定性不安定性に關し誤差範囲とみなし得るかどうかが現在検討中である。

この仕事のきっかけを与えていただきました。当金沢大学医学部平野耐造教授に感謝致しております。

個人同定親子鑑定に有用なDNA多型は塩基置換に基づくもの、欠失に基づくもの、VNTRに基づくもの等に大別され、いずれも法医学実務分野にとり入れられて久しい。アルコール、覚醒剤等によるメチレシオン阻害、担癌等によってこれらのバンドパターンが乱れる事は既知である。バンドパターンに対する後

当初このような視点から施行された本研究に對し助成の榮を与えられた事に感謝の意を表し、諸先輩方からのご理解とご指導を仰して筆を置かせていただきたいと存じあげます。

▼学術研究助成金をいただいて



富山支部 高原照美

このたびは、日本女医学会学術研究助成金をいただきまして大変ありがとうございます。

忘れられない思い出です。初めてこのような助成金をいただき感無量です。

初めて渡った瀬戸大橋の思い出と共に、会長でいらつしやる山崎倫子先生より直接手渡された感激は生涯

簡単ながらここで私どもの研究内容を紹介いたします。当富山医科薬科大学第三内科は肝

臓病の治療をメインテーマに研究を続けてきました。今、注目を集めておりますC型慢性肝炎に限らず、慢性肝疾患の終末像は肝硬変ですが、肝がんの発症母地でもあり予後不良な疾患と考えられています。この肝硬変の主な病態である肝線維化は、現在進行を止める治療法もなく不治療とされています。私どもはこの肝線維化の発生のメカニズムについて今まで研究を続けてきましたが、特に線維化の主要素であるコラーゲンの産生系の解明に努めてきました。つまり、肝線維化過程においてDisse腔にある伊東細胞でのコラーゲン産生が亢進していること、また「HSP」がその促進因子であることが判明されました。今回の私の研究テーマはさらに肝線維化の発生のメカニズムを知るために、コラーゲンの分解酵素の動態とその調節の解明です。

▼学術研究助成を授与されて



大阪8支部 玉井美妃子

このたびは日本女医学会学術研究助成を賜わりまして誠にありがとうございます。通知を頂きました時は感激致しました。

私は消化器がんのうち胃がんに興味を持ち、同じ程度、同じ組織型のがんでもそれぞれがん細胞にお

す。肝線維化成立には先ほどのペマしたコラーゲン合成系の亢進とともに分解系の低下という両者のアンバランスから生じるとされています。このため分解酵素の動態を知ることは非常に重要なことで、将来肝線維化を予防する治療法開発の基礎研究と思われまます。研究の具体的な方法は分解酵素であるメタロプロテアーゼ(MMP)-1, 2, 3とそのインヒビターであるTIMP-1, 2の遺伝子発現が肝線維化でどのように変化するか、その調節のメカニズムはどうなっているか検討する予定です。このような研究が少しでも肝線維化の患者さんにフィードバックできるようにとがんばりたいと思っています。

▼学術研究助成をいただく



千葉支部 今城純子

このたび日本女医学会学術研究助成をいただくこととなり、大変光栄です。さて、私は解剖学という分野で齧歯類を用いて神経系の研究を続けてまいりました。そしてこの程発生の研究にも入ろうと考えておりましたところ、このような助成をいただく大変ありがたく感じしております。

助成金の対象となりましたのはマウスの小脳、特に発成途中のプルキンエ細胞にソマトスタチンが発現するかどうかを、*in situ hybridization*

第15回学術講演研修会のご案内

日時 平成4年11月21日(土) 午後3時30分
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区)
講演者 西来武治先生
演題 患者が求める医療の心―臨床仏教学の提言

学術部

の意欲と実行力に感銘致しました。まだまだ未熟ではございますが今後とも宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

法と免疫染色の手法を用いて、できればその二つを同じ切片上でやってみようというものです。

*In situ hybridization*法とは核酸が相補的に結合することを利用して組織中のmessenger-RNA(mRNA)を、アイソトープで標識して人工的に作った相補的なRNA(antisense RNA)と切片上で結合させ、写真乳剤を塗布してそれを感光させてシグナルとしてみえるようにするものです。今はやりの分子生物学を形態学

に應用したものです。プルキンエ細胞にソマトスタチンが発現することが明らかになればプルキンエ細胞の移動を誘発しているのではないかとということが推測できるからです。プルキンエ細胞は胎生十四日頃より小脳原基の中心部に形成され、いくつかのクラスターを形成して表層へと移動し、生後になって一層のプルキンエ細胞層となります。

これを確認するにはまずプルキンエ細胞のマーカーとなる抗体で免疫染色を行い、その同一切片上でソマトスタチンの *in situ hybridization* を行うのが確実です。簡単には行かないとは思いますが、これらのごことを試みて行きたいと思っております。

また私事ではありますが基礎医学でやっている女医が少ないため、子どもが生まれた時や、他のことでも相談にのってくれる同僚の人が少なかつたということがありました。それから女性である。あるいは子どもがいるということでも嫌な思いをした

■定時総会あれこれ

第37回日本女医学会総会の開催について

香川支部長 松浦俊子

ことも少々ありました。そういうときに先輩できれば女医の方でなくても相談できる人がいたらよかつたなあと考える今日このごろです。そういう意味でも今回の日本女医学会学術研究助成はとても心強いものでした。私もまだまだ未熟ではありますが、若い女医の方たちが研究の分野にも進出されて活躍されることを心から応援していきたいと思っております。

おかげさまで、香川県では県内の女医さんのいる病院にさへ行けば、病気の治療ばかりではなく、その治療のための食事療法まで細かく指導して頂けるということが強く印象づけることができました。その結果学校指導ができるようになり、時間はかかるが楽しい検診が出来るようになったとは、会員皆さん方の偽らざる述懐でした。

昨年の一月頃のことでした。来年度の日本女医学会の総会を、香川県で開催してはとの話がもち上がりました。ところが、その頃の香川県ではまだ女医会は結成されておらず、当時わずか二十九名程度の日本女医学会所属のメンバーだけでは、とても全国大会など開催できる自信はありませんでした。そこでまずその受け皿として県女医会を組織し、香川県の女医が結束してこの大会を成功させようと決心いたしました。最近では男女共学の医大の卒業生も次第に増えてきている状況なので、各大学の卒業生の長に副会長になって頂き、理事十四名を選出して何回かの理事会を開催致しました。

その結果、香川県女医会の設立総会には、佐藤和子先生をお迎えして記念講演をしていただき、女医は女

医なりに、女でなくては出来にくい栄養で健康を作る、いわゆる「台所と直結した医療」をモットーとして旗上げいたしました。そして積極的に会に参加するよう呼びかけを行うとともに、名簿の整理につとめました。その結果、県内の女医二百四十名のうち百四十名の方が入会され、ここに新しく県女医会が発足することとなりました。そしてその年七月に行われた第二回の講演会には、「肥満・リウマチの健康を支える栄養学」を、さらに十月には第三回目として「肝臓病を克服するための栄養学」を、そして、本年一月の第四回講演会には「アトピー性皮膚炎・アレルギー性疾患の栄養学」など、もっぱら佐藤和子先生にご足労願ひ、本当に懇切丁寧なご指導を頂戴いたしました。こうした佐藤先生のご指導もあり、

第13回学術研究助成のご案内

- 一、助成の趣旨
医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。
- 二、助成金額
一件三十五万円(一五件)
- 三、申込手続
(1)応募資格
入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)
- (2)助成期間
一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の間隔を置く。
- (3)応募方法
本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。
一通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)
- (4)申込期間
平成四年十二月二十五日(必着)
- (5)選考および発表方法
選考委員会において選考の上、平成五年三月開催の日本女医会理事會において決定し、申請者宛通知する。
- (6)助成金の贈呈
平成五年五月開催の日本女医会総会の席上。
- (7)受賞者の本会に対する義務
平成六年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。
- (8)送り先 日本女医学会本部 〒150 東京都渋谷区渋谷二一八一七
電話 〇三三四九八〇五七一

じめ、特に開催地香川を如何にPRするかにいろいろ心を砕きました。日本女医学会誌の十二月と一月号には開催地のPRもして頂きました。しかし、まだまだ盛り上りは充分ではありませんでした。しかも開催予定の五月頃は婚礼時期でもあり、メインを日曜日においての土・日曜日の設定が出来ず残念でした。加えて今年にはまた中国の西安における空海記念碑建立十周年とかで、総会開催月の十八日から二十三日まで、香川県知事をはじめ県の要人が不在になってしまつたという不測の事態も重なりました。またこの意義深い大会を、県内の多くの人たちに理解して頂くために八方手を尽くすなど、総会を眼の前にして大いに気をもんだものでした。

開催決定の昨年五月には、まだ一年もあるという悠長な気持ちでしたが、月日の経過とともにやがて二カ月、一カ月となり、まるで津波のようにのしかかって来る使命感と焦りをよそに、時間は矢のように過ぎ去って行きました。幸い私たちスタッフ以外に各方面からのお手伝い、特に優秀な男性方の支援も頂き、焦りの中にも、受入態勢は順調に整って行きました。

一方当日の記念講演も、「医療」から一歩離れた「文化」的な香りのするものをご考えておりました。ところが幸運にも、私の懇意にさせて頂いている方の美大出身の奥さまが、朝倉先生のお弟子さんとのこと。こ

うして日本における劇場演出の第一人者である朝倉先生との出会いとなり、しかも総会予定日の五月二十三日にはたまたま空き予定とのことでした。本当に小おどりして喜びました。舞台芸術の第一人者の朝倉先生を四国に初めてお迎え出来ること、そして何よりも、女医学会の皆様方にご紹介出来ることは、本当に嬉しいことでした。

最後に懇親会でのイベントを何にするかも、大きな案件でした。これにはまず総会にふさわしい「祝いの舞い」が決定されました。この祝いの舞いは、舞踊界の第一人者である藤間勘清先生にお願いすることとし、そのほか、先生のお弟子さんたちによる「瀬戸の海」も参加して頂くことになりました。

あと一つ。これは、舞踊とともに当日のイベントの大きな柱ともなるものでした。総会を成功させるためにもあと何か一つ。私は迷いに迷いました。ところが、ここにラッキーなことが起きたのです。たまたま今年の三月、私の孫が福岡大学医学部を卒業することになり、その時謝恩会が開かれてそれに出席する機会がありました。そしてそこで図師マジシャン、しかも福大の四十八年卒ミスターマリックさんの一弟子で、超能力者でもある方のマジックを見せてもらって、大変感銘致しました。「イベントのメインはこれしかない……」私は即座にそう決心すると、早速楽屋へ飛び込んでいました。私

て頂いた皆様方のお一人お一人の積極的な参加とご好意が、つくづくと

第37回日本女医学会総会を終えて

香川支部 大内通江

五月二十二日の前夜祭に始まり、二十三日の総会、懇親会、二十四日の観光旅行で第37回日本女医学会総会を無事終えることが出来ました。今日、お電話で伺いますれば、松浦俊子先生は総会後二日間、三十九度も発熱でお休みになられたとか、先生に頼り切りだった私どもの不甲斐無さをつくづく申し訳なく思っております。前夜祭のテーブル席、当日の受付、休憩室の案内の不手際等深く反省しておりますが、日本女医学会会長山崎倫子先生のおこぼれで、また香川女医学会会長松浦俊子先生のおなみなみならぬお骨折りですべてはお許しただけだったのでないかとひそかに胸をなでおろしております。昨年一月二十七日小雪の舞う日、松浦先生の呼び掛けにより香川県在住の数名の女医が集まりました。「第37回日本女医学会総会を香川県で行うことになった。その受け皿として香川女医学会を設立しては」という提案でした。それから各出身大学別に手分けして女性医師の協力をお願いし、香川女医学会発足に漕ぎ着けたのでした。「今さら女医学会でもな

見も消失し新しい参集の空気を感じている今日このごろであります。日本女医学会総会が香川県で開催された

観光コースに参加して

香川支部 都崎多美恵

平成四年五月二十三日、日本女医学会37回総会が坂出で開催されました。天候にも恵まれて、一年余り前より準備をされた松浦会長を始め理事の先生方もご苦労が報われて、ほっとしておいでだろうと想います。前夜祭、総会と無事終了して、いよいよ最後の観光出発となりました。二十四日坂出グランドホテル九時二十分バスにて出発致しました。朝より曇り空でちよつと心配致しましたが、出発頃よりお天気も良くなり、一同晴々としたお顔で乗車され、普通寺本山へと向いました。普通寺本山でA班の方々と合流しまして、菅長さんのご講話を立派で荘厳な本堂でお聞き致しまして、国宝の三國伝来の金銅錫杖(弘法大師が唐の恵果阿闍梨から授かった真言宗八祖相承の紫金銅の錫杖)を頭に上りいただき、それより戒壇廻りを弘法大師お修業の場所へと階段を降り、左手に手すりを持ち、真黒な闇の中を「南無大師遍照金剛」を唱えながら進み、身を清められる思いでやつと光さず場所へ出られ、救われ

た思いが致しました。再び階段を登り、お庭に出て宝物館へと新緑に照り輝くみどりの美しいお庭を巡って参りました。宝物館に弘法大師が法華経を書写し、その文字の横に母君の玉寄御前が仏像を描かれたもので国宝になっており、経文と仏像が見事に調和して美術的にも高く評価されている一字一仏法華経写本がごぞいます。その他稚児大師立像、天祥天立像等いろいろと重要文化財が拝見出来ました。おみやげにパンフレットとお供物を頂戴して、菅長さんのお見送りをうけてバスに乗り、世界のガラス館へ参り、いろいろと皆さまおみやげを買って求められたごようすでございます。十二時四十五分威風凛に乗船して瀬戸大橋周辺を潮風に吹かれ、美しい島々を眺めながら大橋の下より橋桁を見物し、雄大な構造に驚かされ、上から眺める景色と違った風景を堪能しました。下船して与島で昼食を頂戴しまして、また海の幸をそれぞれおみやげ

にお買上げになり、宅急便で送られたりと皆様楽しそうにございました。それぞれ帰路に着かれる先生方を三時まで坂出駅へ、また四時まで高

香川総会に参加して

千代田支部 井上柳子

第37回日本女医学会定時総会が、平成四年五月二十三日、坂出市の坂出グランドホテルにおいて、前日に香川女医学会主催の前夜祭が、オークラホテル丸亀にて開催された。池内啓子先生の司会により、日本女医学会会長・山崎倫子先生が、子どもの成人病予備軍について、皆様と考えてゆきたいとの挨拶、ついで香川女医学会会長・松浦俊子先生より、一年前からお天気を心配していただきと心配りの歓迎の挨拶。多くの、ご来賓の挨拶が続き、薬剤師会会長・氏家チエ子先生が、松浦先生と「元気で百歳まで生きよう会」をつくって、会員数も千五百人、単行本も出している。医師と薬剤師が、仲良く二人三脚で、高齢者と小児の問題に取りくんでいるとの挨拶に、日本一の元気な長寿県になると思った。ついで青森支部長・前田慶子先生が、津軽の歌など披露され、パフォーマンスに場内が湧く。懇親の宴と

松空港へとお送りしました。皆様お喜び下さいまして無事お一人の事故もなく心より嬉しうございました。以上ご報告申し上げます。方々に黙禱を捧げる。会長の指名により、議長団には斉藤歌子先生、上村孝子先生、関根みよ先生に、議事録署名人には大橋鎮子先生、田原順子先生が選出される。米寿を迎えられた、三神美和名誉会長が壇上の席に、一同大拍手でお迎える。吉岡弥生賞には高柳泰世先生、稲垣千代子先生、萩野吟子賞には若崎和佳子先生、加藤三子先生が表彰され、立派に医学に社会に貢献され、深く感銘をおぼえる。学術研究助成も、六名の若い先生方が受けられる。第一号議案から、第四号議案まで、すべて原案通り承認される。京都支部長・松本文絵先生より、来年は国際会議と総会と両方なので、今から緊張していますが、特別講演は期待して欲しいと、心強い挨拶を頂く。

記念講演

佐藤和子先生

「健康を支える栄養学」細胞が正常に機能できるように、栄養を整えること、脳細胞も消化器の粘膜も入れ替わっていることを知ること、大切な栄養素は、一に蛋白質、二にカリウム、三にビタミンC、四に鉄、五にナイアシン、ビタミンDである。特に、今の病院の食事は、ひどいので変える必要がある。食品を交通信号のように、赤群は、魚介類、肉類、卵、乳製品とし、青群は、緑黄色野菜、淡色野菜、果物、海藻類、茸とする。黄群は、穀類、芋類、

アルコール、砂糖、油脂として、分類した。仕事におかれ、睡眠も少なく、医者の不養生といわれる日々を、大いに反省して睡眠を、たっぷり、栄養バランスの良い食事を一日三回均一にとり、こまめに動きまわろう。

「演劇空間」
朝倉 撰先生

第22回国際女医学会(MWIA)

第22回国際女医学会に出席して

会長 山崎倫子

「全ての子どもたちの健康」と題するグアテマラでの国際女医学会、第22回国際会議から帰って、安全、自由、そして物の豊さを満喫することの幸せを味わっています。と同時に、この会議で報告され、話し合われた子ども、女性、環境、保健など、あらゆる面に存在する大きな格差に胸を痛めております。

また、このころしばしば報道される地球環境の危機の深刻さに限りなく不安をおぼえている今日この頃です。傷だらけの地球環境の改善に一人ひとりが、積極的に行動していかなければならないことを再認識しなければなりません。

百六十枚の舞台装置のスライドを、くわしく説明して下さる。桜や白百合の花に、紗を使って幻想的な舞台空間を表現しているのは、正に舞台美術である。チェロホフのイメージを出すために使いたいの、皆様の家にいらぬリースのカーテンがあったら寄付して下さいといわれる。夢は、新宿の歌舞伎町で、シェーク

スピアを、やって見たい、劇作は寝ているが、それを起こすのは舞台装置ですと、朝倉先生の瞳は輝いていらした。
総会は、盛大に終る。今回の大役を引き受けられ、お世話下さった松浦俊子先生始め香川県女医学会の先生方に深く感謝申し上げます。

ラの女医が今後保健活動を進めていく上に重要かつ非常に貴重な行事であるとのコメントもありました。
次に、第一、第二回の総会で行われた執行部からの報告及び決議事項について、重要と思われる部分についてご報告致します。
一、国際女医学会の組織の変更。従来十三の委員会から成立していたものを三つの常任委員会に縮小したこと。(1)倫理及び決議委員会、(2)財務委員会、(3)学術及び研究委員会である。この他に①前会長顧問会、②ヤング・フォーラム、③ニュースレター編集の三つのワーキング・グループが編成された。
二、国際女医学会の会計は健全である。さらに機構改革によって経費の節減も見込まれるので、今回は会費の値上げは行わない。
三、カメルーン(アフリカ)とルーマニア女医学会の加入、加盟が認められた。また個人会員として、ブルンジ、中華人民共和国、エチオピア、ハンガリー、マリ、スーダン、トンガより各一名とイラン二名の加入が承認された。
四、次々期国際会長にはケニヤの Dr. Florence Manganyi が無投票で決定された。
五、事務総長、書記、会計は変更なし。
六、第二十三回国際女医学会は、一九九五年五月七日から十二日までオランダのヘーグで開催される。
七、一九九八年の第二十四回国際

会議については、台湾とケニヤが立候補していたが、投票の結果、ケニヤのナイロビで開催に決定した。
さらに、西太平洋地域の会長、連絡書記会議では、次のことが決定された。
一、西太平洋地域会議での役員会で次々期開催国を決めること。一九九三年は日本が主催、次の一九九六年はニュージーランドと既に決定している。従って次々期主催国を来年の役員会で決定することになる。
二、西太平洋地域から選出する国際副会長については、会議を主催した国から順番に選出することとし、原則として二期重任は望ましくない。
三、地域内交流を密にするための広報活動を行う(具体案未定)。
最終日に行われた総会での決議事項については連絡書記を代行された平敷理事から報告があります。山崎が出席したセッションとワークショップについては、ペーパーの傾向と感想を述べさせていただきます。
開発途上国に存在する子どもの基本的保健問題は想像以上に根深いもので、経済、社会、保健、保障、教育、文化などのからみあつた複雑な背景があり、どこから、どのように誰が解決していくのか大変むずかしいことと思ひました。
子どもに対する無視、虐待、暴行、浮浪、ストリート・チルドレン等、話には聞いていたましたが、各国、特にアフリカ、中南米諸国からの訴えるような発表、発言にはやりきれな

今年六月、ブラジルのリオデジャネイロで開かれる地球サミット(環境と開発に関する国連会議)に参加する百数十か国余の国々が、それぞれのエゴを主張することなく、睿智と資金をだしあつて許容できる地球環境をとり戻すための処方箋を作り、早く行動を起こしてほしいと切望しています。
さて、先般三月八日から十三日まで、中米、グアテマラ市において開催された第22回国際女医学会に日本から二十六名が参加しました。
今回の参加国は四十カ国。ミゲル・アンジェル・アストリウス文化センターの大講堂で夜も更けかけて開

式が行われました。
国際会長 Dr. Il Ok Choo を中央に、大統領夫人、公衆衛生、福祉大臣、ユニセフ代表、グアテマラ女医学会長等が壇上に居並ぶ中、国際女医学会を先頭に参加四十カ国の国旗が次次に、音楽の流れるなか、グアテマラ大学学生と同女医学会員に捧げられて入場、グアテマラ国歌演奏、開会宣言、来賓の祝辞、挨拶、等々再び国旗退場と…時間を超越した、お国柄の演出でいともおそく行われま

たことがあります。
たくさん質問したいことがありましたが、医師を恥ずかしめるような気がして、お気の毒です。さしひかえましたが、次のような簡単な質問をしました。
「感染症で死亡することがありますか？」
「あります」
「肺炎」
「髄膜炎、敗血症は？」
「あります」
「高ビリルビン血症は多いですか？」
「少しあります」
「子約は？」
「来院した時は手遅れです」
その数値など、深く質問したいと思つても一度に大挙しての見学ですから、思うままになりません。最後に少女のような母親を見かけることが多いので質問してみました。
「母親は大変若いようですが？」
「十八歳で二三人の子どもがある」
多産多死時代の日本を思い浮かべました。
十三か十四歳の女の子が黒く痩せた赤ちゃんをおんぶして、ソツと覗くと、この子に「ドル下さ」といわれても驚かされました。少女のような母親ですが生活力は旺盛です。
病院訪問のあと Chichastenegro など観光とショッピングを致しました。ところせましと並べられた色も

さを感じました。工業国からは、特に思春期の虐待、性的暴行、中絶、そのフオーロー、精神的考察、疫学調査が報告されました。
冒頭に述べたような問題を抱える開発途上国の発表の多い中で、佐藤千代子、山崎は、近年日本で問題になっている子どもの保健問題として、子どもの成人病の増加―肥満、高脂血症、高コレステロール血症、高血圧、糖尿病など―、アレルギー、体力と骨折、ストレスによる消化性潰瘍の増加、その対応策についてを

メントがあること、最近、大学学長を含む平等委員会を発足、改善を求めている(カナダ)と。オランダからも女医の昇進のむずかしさ、育児休暇についての声があり、労働組合に入ることをすすめるなどの意見もありました。
その他、STD、AIDS、売春、アフリカからは一夫多妻制度、女性の Circumcision (割礼)等について、かんかんがくがくでした。

の発表、特別講演、と二つのワークショップを考えています。
広く社会に、また国際的に目を向け、各国から参加する女医と交流を

グアテマラの子どもたち

病院訪問に参加して

野呂幸枝

組織委員長 Dr. Ingrid Stowling de Mico に聞いてみました。
一九七〇年女医の数は三十人にしかすぎなかったのが一九九二年現在約一、五〇〇人になった。医師総数は八、五〇〇人で約一七・六％を女医が占めている。女医の年齢分布は二十四歳から七十五歳で、もっとも多い年齢層は二十六―三十二歳で六四％を占める。平均年齢は二十八・五歳。専門は、小児科、産婦人科、内科の順で、八〇％は勤務医である。女医の約七〇％は男女差別があり、今後も続くだろうと思つているようだ。ちなみにグアテマラの平均寿命は五十五歳だと聞きました。

グアテマラ市における第22回国際女医学会の第五日目に施設訪問のうちサン・ファブリアン病院のグループに参加しました。
小児科専門医であるなら、この病院がよいと助言がありましたので、ある程度の期待をもって出発いたしました。

グアテマラ市の中心からかなり離れた場所にある病院の粗末な門をくぐり、玄関からうす暗い廊下を進みました。案内されたのは小さな集会所で、小児科担当医から簡単な説明を受け、立派な体格の院長のご挨拶もありました。
午前中ですが患者の姿は少なく、廊下の壁にそって私たちが眺めているのが印象的でした。
病室はあまり多くないようで、二階に新生児室と一般小児病室が並んでいました。その廊下に私たち一行は一ぱいに集まり、ガヤガヤと批評したり、驚いたりしながら小児科医の簡単な説明を聞くわけです。さら

にハイリスク児の病室には内部まで侵入して見るのです。高ビリルビン血症で治療法をしているもの、重篤な呼吸障害の児のベッドサイドを予防着もなく通りすぎました。
感染症予防のため厳重な対策をたてている私どもにとり、驚き、あきれた病院管理です。若い医師はアメリカで教育を受けたそうです。感染症、ことに細菌感染に対しては日本以上の神経をつかうアメリカで勉強した方のこの大胆さは、お国がらでしょうか。
医療器具にしても治療法は二十六年前にロスアンゼルス小児病院で見たもの(日本ではより便利で安全なものを作られています)であり、呼吸障害児も昔のままの鼻腔よりチューブで酸素を送り、その上に頭部だけマスクをかぶせてあるのみ。チアノーゼが見られているが、人工呼吸器はなしの状態です。
新生児の保温も電球を用いたものでした。三十年以上前に日本でも見

たことがあります。
「少しあります」
「子約は？」
「来院した時は手遅れです」
その数値など、深く質問したいと思つても一度に大挙しての見学ですから、思うままになりません。最後に少女のような母親を見かけることが多いので質問してみました。
「母親は大変若いようですが？」
「十八歳で二三人の子どもがある」
多産多死時代の日本を思い浮かべました。
十三か十四歳の女の子が黒く痩せた赤ちゃんをおんぶして、ソツと覗くと、この子に「ドル下さ」といわれても驚かされました。少女のような母親ですが生活力は旺盛です。
病院訪問のあと Chichastenegro など観光とショッピングを致しました。ところせましと並べられた色も

また重要な問題として取上げられたものに、男女差別がありました。カナダの大学における女医の上級地位につく困難さ、地位、待遇、採用条件の差などが話され、特に、妊娠出産に当たっての休暇がないこと。計画出産をしない限り、時として出産の翌日からでも勤務しないと地位の保持が出来ないことさえあるなど。女医の大学における地位の不安定なこと。往々にしてセクシャルハラス

既にご案内の通り、一九九三年五月に京都で第五回国際女医学会、西太平洋地域国際会議が開催されます。日時は五月二十、二十一、二十二の三日間に決定しました。
テーマは「高齢化社会における医療」で、この範疇でいろいろな演題

たことがあります。
たくさん質問したいことがありましたが、医師を恥ずかしめるような気がして、お気の毒です。さしひかえましたが、次のような簡単な質問をしました。
「感染症で死亡することがありますか？」
「あります」
「肺炎」
「髄膜炎、敗血症は？」
「あります」
「高ビリルビン血症は多いですか？」
「少しあります」
「子約は？」
「来院した時は手遅れです」
その数値など、深く質問したいと思つても一度に大挙しての見学ですから、思うままになりません。最後に少女のような母親を見かけることが多いので質問してみました。
「母親は大変若いようですが？」
「十八歳で二三人の子どもがある」
多産多死時代の日本を思い浮かべました。
十三か十四歳の女の子が黒く痩せた赤ちゃんをおんぶして、ソツと覗くと、この子に「ドル下さ」といわれても驚かされました。少女のような母親ですが生活力は旺盛です。
病院訪問のあと Chichastenegro など観光とショッピングを致しました。ところせましと並べられた色も

たことがあります。
たくさん質問したいことがありましたが、医師を恥ずかしめるような気がして、お気の毒です。さしひかえましたが、次のような簡単な質問をしました。
「感染症で死亡することがありますか？」
「あります」
「肺炎」
「髄膜炎、敗血症は？」
「あります」
「高ビリルビン血症は多いですか？」
「少しあります」
「子約は？」
「来院した時は手遅れです」
その数値など、深く質問したいと思つても一度に大挙しての見学ですから、思うままになりません。最後に少女のような母親を見かけることが多いので質問してみました。
「母親は大変若いようですが？」
「十八歳で二三人の子どもがある」
多産多死時代の日本を思い浮かべました。
十三か十四歳の女の子が黒く痩せた赤ちゃんをおんぶして、ソツと覗くと、この子に「ドル下さ」といわれても驚かされました。少女のような母親ですが生活力は旺盛です。
病院訪問のあと Chichastenegro など観光とショッピングを致しました。ところせましと並べられた色も

たことがあります。
たくさん質問したいことがありましたが、医師を恥ずかしめるような気がして、お気の毒です。さしひかえましたが、次のような簡単な質問をしました。
「感染症で死亡することがありますか？」
「あります」
「肺炎」
「髄膜炎、敗血症は？」
「あります」
「高ビリルビン血症は多いですか？」
「少しあります」
「子約は？」
「来院した時は手遅れです」
その数値など、深く質問したいと思つても一度に大挙しての見学ですから、思うままになりません。最後に少女のような母親を見かけることが多いので質問してみました。
「母親は大変若いようですが？」
「十八歳で二三人の子どもがある」
多産多死時代の日本を思い浮かべました。
十三か十四歳の女の子が黒く痩せた赤ちゃんをおんぶして、ソツと覗くと、この子に「ドル下さ」といわれても驚かされました。少女のような母親ですが生活力は旺盛です。
病院訪問のあと Chichastenegro など観光とショッピングを致しました。ところせましと並べられた色も

鮮やかな布は見事なものでした。四五歳の子どもから少女たち(お母さんもあるでしょう)は布を脇にかかえたり肩にのせたり、頭にのせたりして売りに来ます。皆様はいかに安く買うか、ブレイのように楽しんでいるらっしゃいました。

少女たちは東洋人的で、黒いが利巧そうな顔の子が多く、時にはズルそうなおもいきました。強引な買手との掛け引きで、このような表情になるのでしようか。

九歳ぐらいの女の子が、私の両手を握って振りながら歌いました。「セツセツのヨイヨイヨイ、オチヤノコオチヤノコオチヤノコ、ホイ」

私たちの子どもの頃の遊びです。私は相手になってやると瞳をキラキラさせて、布を地面に投げ捨てて、遊びに夢になりました。楽しんでやりました。二度と会うこともないグアテマラの子、労働に負けず、すこやかに育って下さいと祈らずにはいませんでした。

ことでしょう。戦火に追われ、家を失い、両親と別れている子どももより幸福でしょう。平和な国に生を受けたいです。日本の子どもたちは平和を満喫し、過保護、過栄養に育ち、苦難に耐える気力と体力に乏しいのではないのでしょうか。

パーティーと観光

佐藤千代子・白橋美笑

紫のジャカラングと色とりどりのプーゲンピリアが青空に映え、会議中快晴に恵まれた。気温は昼は汗ばむ程の暖かさであり、夜は肌寒さをおぼえた。

パーティーあれこれ

開会式に引き続きのウェルカムレセプションは、延々と遅れて始まったのが午後十時。さて、と私どもの期待感を裏切ったアナウンス「これから十分休憩、その後ダンスをお見せ致します」に一同啞然、食事があるのやら無いのやら。ドレスアップして臨んだ私どもは空腹と疲労を抱えて中座のやむなきに到り、ホテルへ戻った。

三日目、大統領招待のレセプション

逃げようとする日本を思うとき、グアテマラの子どもが強く私の心に残るのでございます。Health for all children を会議のテーマにしていた会議で、あの病院を見たことは大変複雑な気分になって、雨の降りつく日本に帰って参りました。

ンの子定であったが、詳細のわからぬまま中止となった。翌日、グアテマラ衣装のファッションショーが開かれたが、これが市長招待で食事が出たこと、事前に内容のわからぬまま私どもはその日マヤの遺蹟のあるティカルへ出かけたのを見ることは出来なかったが、ショーに出された服の即売などあって楽しかった。

最終日、閉会式あとの晩餐会は現地へ到着してから六十ドル払い、盛装で会場へ、私どもは折角ナイジェリアの四人の会員と同席、歓談を始めたが、楽団の近くであったため耳をつんざく大音響に我慢できず、別席へ逃げ出した。国際役員は任期満了に伴い前役員表彰、大会関係者の表彰が長々と続きようやく食事

となったが、例によってプッフエスタイルで隣室まで料理をとりに行く。中央ホールではラテン音楽のリズムの響きが始まり、いかにも肩の荷がおりたという嬉しい表情でステップをふむグアテマラ女医会長が姿が印象的であった。いつ果てるとも知れないパーティーに、翌朝早い出発の私どもは失礼してホテルへ、午後十一時、ラテンの国々は夜が長い。まったく異なる時間感覚に馴れることは到底無理であったが、二十余人のグアテマラ女医会員(グアテマラ市には六百人の女医がいて、男医とはほぼ同数である)の精一杯の努力による運営を感じた。半年前から募集したといわれる若い男女(二カ国が話せる、医学または理工系の大學生)が揃いのグアテマラ織のブレザーを着て、陽気に一生懸命働いていたのが良かった。

観光あれこれ

●マヤ遺蹟(数字)

- 1 2 3 4 5
- 6 7 8 9 10
- 11 12 13 14 15
- 16 17 18 19

●ティカル

グアテマラ市から飛行機で約一時間、ジャングルの中にあるティカルへ。ティカルはマヤ地帯の古典期の

諸都市の中でもとくに重要な都市で、ピラミッドや宮殿の壮大な規模は、現在世界で発掘されている遺蹟の中でも他に比較するものが無いといわれる。遺蹟は想像以上の広さで大きく、ジャングル内に散在している建物は天に聳える高さであり、しかも古代のままの姿で私共を感服させた。ジャングルは湿度が高く足元も危なく、腰を下す場所もなく、汗にまみれて歩き続けた。現地の男性ガイドが私どもに敬意を払ってか一つ一つの建造物について懇切丁寧な説明をし、マヤの数字も地面に書いて教えてくれる。古代人の知恵に驚嘆しながらも私どもの頭を去来するのは冷たい一杯の水と腰掛であった。儀式の行われた広場にある神殿は階段を昇ることが許されている。若さを誇る何人かが挑戦、見事に頂上に到達された。高く、垂直に近いため降りる時下が見えず恐怖をおぼえたこと。黒ずんだ石造りの宮殿に住居にマヤ文化のかつての繁栄が偲ばれ、足の裏の痛さもどこへやら現世を忘却したひとときであった。この凄しい古代都市が放棄され消滅していった謎もふくめ、人類の歴史の偉大さを眼のあたりにして、グアテマラへ来てよかったと感動した。

●アンティグア

中央アメリカでもっとも壮麗な都市として栄えた都市であるが、地震と洪水で全滅し、中央アメリカのポンペイといわれる。町一面建物の姿

はなく、僅かに修道院が建物、壁の一部を廃墟の中に残している。広い庭の中で会議参加者一同プッフエを楽しんだ。昼食ののち市庁舎を訪ね、市長さんから歓迎の挨拶をいただいたのち、教会へ移動しバロック音楽を聞いた。市庁舎への通りに珍らしく店構えの織物店が並び、念願の織物ショップピングが出来た。

●チチカステナンゴ

グアテマラ市から車で三時間、二千メートルの高原にあり、インディオの村といわれる。インディオの服装の子供たちが織物を手に一杯掛けて寄ってくる。美しい湖畔のレストランで昼食のひとときは観光地の趣であった。帰途、私たちの乗ったバスは陽気な外国会員の音頭でコーラスが始まった。最高頂に達したところ鈍い音がしてタイヤがパンク。既に暗くなった峠の上で一時間ほどパンク修理、窓から覗いて見たタイヤは一本の溝もない丸坊主、というより所々ゴムが剥がれている。ぞっとした。直後立寄ったドライブインでホテルへ連絡を入れたかと思いきや全然しなかったと聞いて、今更ながら



人々のおおらかに驚いたり感心したり、ホテルの玄関で残っていた方が心配して待っていて下さった。

グアテマラの織物

グアテマラは世界で一番刺繍の盛んな国との案内にたがわず、市街地を離れた町や村には織物が溢れていた。マヤの末裔が創る織物はカラフルでデザインもいろいろ、しかも土地によって特色があった。路上で市

場で子供から老人まで頭に積み、肩に掛け、客を囲んで売っている裸足であり、皮膚も乾燥している。この伝統ある織物を市場経済に乗せたらこの人々はどう少くも豊かな生活を得られるのではないかと考えさせられた。ピンセットでつまみたいほどの汚れた紙幣にも馴れて、ケツツアルで値引交渉が出来たようになつたところ旅は終わった。グアテマラにいいしれぬ愛着を残しながら。

第22回国際女医会議に出席して

平敷 淳子

第22回国際女医会議(MWIA)は一九九二年三月八日から三月十三日までの六日間、中南米グアテマラの首都グアテマラ市のシェラトンホテルで開催された。参加国三十五カ国、参加者約五百六十名中、日本女医会からは山崎倫子会長他二十六名が参加した。

MWIAの現会長は今回の会議をもって三年の任期終了となる韓国のDr. Il Ok Choo、大会長はグアテマラ市のDr. Ingrid Slowing de Miro。会議は総会三回、ビジネスミーティング二回、学術発表に加え、市内病院見学(野呂副会長記)、史蹟や文化をめぐる種々ソーシャルプログラム(佐藤千代子、白橋美笑副会長記)

議長はDr. Chooがつとめられた。各国代表は国名の表示されている定席に着き、投票は会員数によってなされた。各コミティ報告や地域の副会長による年次報告を討論の上承認された。

総会

次期会長はイギリスのDr. Dorothy Ward、一九九八年第二十四回会議はケニアで開催と決定された。ケニア女医会を代表するDr. Florence Mangunyは常にほほえみをたたえ、ユーモアのあるスピーチで、大会開

が用意されており、計画に沿い実行された。

催国となる喜びと責任を語った。会議の最終日には今回の決議(Resolution)が以下のようにまとまった。概要をリストすると、

- 1、女性のがんの早期発見に関する問題
- 2、女性の健康に関する教育
- 3、臓器移植やHIVに関する全人的及び倫理的諸問題
- 4、長期的研究に対する基金
- 5、妊娠、避妊、出産に関する教育
- 6、MWIA会長候補の資格に関する問題
- 7、医療の諸問題を地域国内、国際的に伝達する技術の問題

西太平洋地域会議

Western Pacific Regional Meeting

国際女医会は地理というブロックとは異なるいくつかの地域に分けられ、それぞれ副会長がおり、地域ごとの活動がおこなわれている。日本の属する西太平洋地域には台湾、韓国、フィリピン、ニュージーランド、オーストラリアが属し、今回から個人会員としてトンガが加わった。本会議中の議長はこれまでの副会長Dr. Virginia Kwan(台湾)がつとめられたが、一九九二年よりDr. Di Zou(フィリピン)が副会長となられる。

地域大会は三年に一回開催、開催国はローテーションという合意に達した。副会長は地域大会を開催した国の人になることが望ましいという方向づけもなされた。

一九九三年五月二十日より二十一日まで第五回地域会議(組織委員長・佐藤千代子)が京都で開催されることは総会の折に山崎会長より報告され、各国代表とMWIA本部役員に英文サーキュラーが配布された。

学術発表

今回のメインテーマは「全ての子どもの健康、Health for all children」さらに十二のサブ・テーマが設けられていた。各サブ・テーマは午前中に招待講演一から三名、午後公衆論文の発表という形でおこなわれた。サブ・テーマが多く、会場が細分化されてしまった傾向は強いが、山崎佐藤先生は「Child Health Problems arising in recent Japan」と題され、小中学生と高校生の肥満と高血圧、高コレステロール血症、骨折と住宅環境、急増する中学生の消化性潰瘍、中学生の体力の減退等綿密なデータをもとに発表され、参加者から大きな反響をえた。平敷は「MRI for the evaluation of Pediatric diseases」と題し、埼玉医科大学での磁気共鳴画像(MRI)をもとに最新の画像を提示した。これはルイジアナ大学小児外科のDr. Faith Hansboroughの講演を裏づける資料として喜んでもらえた。

グアテマラ、コスタリカ、ホンジュラス、ニカラグア等中南米近隣諸国からの発表に注目すると、マヤの生活形態から来る一酸化炭素中毒、貧困から来る捨て子の人道的、社会的

海抜二四〇メートルの高地に広がるラテンアメリカ最大の都市。町の中心部で、ソナロッサという繁華街に近く、メインストリートであるレフォルマ大通り沿いで独立記念塔が目の前という立地条件に恵まれた、マリア・イザベル・シエラトンに二泊しました。

一日目の午後は市内観光、メインストリートには超近代的なオフィスビルが立ち並び、首都の経済の中心地、主な交差点にはコロンブス記念碑、前述の独立記念塔といったモニュメントが立ち並び、目安にもなっている。南西部に広がる巨大な森林公園、チャプルテペック公園をまず訪れました。それからソカロという中央広場、かつてアステカの都テノチティトランの中央神殿があった場所ですが、現在広場の周囲にはカテドラル大聖堂や国立宮殿が立ち並び、この宮殿の中庭に面した回廊にはメキシコの代表的画家デイエゴ・リベラの自国の歴史を表現した大壁画が描かれています。次に三文化広場といわれているアステカ時代の神殿跡、十七世紀植民地時代のサンティアゴ教会、そして近代の高層建築の外務省、この三時代の文化を共有して同一場所に建立されている様子が珍しく、カメラに収めて市内観光を終えました。その夜はメキシコといえは必ず絵ハガキ等にも登場するマリアッチ楽団を聴きにガリバルディ広場まで足をのびました。マリアッチの語源は



伝説のマリアージュ(結婚)からきたもので、結婚式に呼んだ流しの楽士たちのことを呼んだようです。そういえばこのマリアッチ楽団の形式は、グアテマラでの開会式会場入口、ガーデンパーティー会場、女医会総会後のコンサート、教会の中のコンサート等いたる所で楽しむことが出来ました。

翌日は中村先生は近郊の大学都市娘は美術館や国立芸術院等各々自由行動に別れ、最後の一日を楽しみメキシコを後にしました。

過去何十回かの海外旅行で体調の異変の無かった私もグアテマラでは下痢に見舞われました。絶対に生水は飲用しなくても、直接手渡しの商品などは紙に包まれていないストローなど(この時は野外)、また出発前の自分の体調なども加味し、よい反省の機を経験しました。

アラング、スノーケリング等に興ずる若い人たちの姿を見ながら、心からリゾート気分を満喫致しました。

ホテルから車で約一時間半ほどの海沿いに開けたマヤ文明の遺跡トゥルムを訪れました。一五八八年この地に着いた探検家のグリルハルバをして「セビリアをも凌ぐ壮麗な町」と言わしめた、高さ十二メートルの断崖の上に立つカステイリョと呼ばれる城塞の跡、グアテマラのティカルの遺跡と異なり、ここでは大分崩れ、また生贅の捧げられたといわれる石の台のある神殿が数カ所散らばって建っていました。

トゥルムの帰路、マヤ語で「水の生まれる地」を意味する海浜公園シエルハを訪れました。深い入江には透明な水がたたえられ、まるで天然の水族館です。魚と一緒に泳ぎたわむれる子どもたちにおどろき感嘆しました。

それからインディオの末裔といわれている少数民族が暮らしている場所にも寄り着きました。洞窟のような所に一家が住んでおり、物珍しそうに私たちを見ていました。ガイドに断って貰い一緒に写真を撮りました。池の中で泳いでいた子どもたちにも声をかけましたが、はにかんで水から上ってきませんでした。実に純情素朴でした。ホテルへの帰り路のところどころにマヤ文明の遺跡の崩れかけたのが見られました。

豪華なリゾート地とも別れを告げ次なる目的地メキシコシティへ。

第22回国際女医会が、グアテマラ市で六日間を終了し、美しい花、ジャカラダ、ブーゲンビリアと咲き競う街を後にしてマイアミに向った。機中座席が重複して売られ、一行の中で三名は普通席にてマイアミに着いた。出発するまで添乗員は、アメリカ航空の現地の人々に理路整然と自分たちには非はないと英語で強く掛け合ってやっと一人五〇〇の一年間有効のアメリカ航空利用券をもらうこととしての出発であった。道理があればそれを通した添乗員はよくやったと思う。ここまでになった日本の世界における能力を知ったようで嬉しかった。

昼すぎに到着したマイアミ空港はカリブ海に面した平坦な周囲に何も無い静かな空港であった。そこはアメリカなので入国手続きをして何なく入国した。グアテマラより三時間半のうちに、漸次雑ではあるが文明の国にきた感触にふれることが出来た。それは道路の広さ、電灯の明るさ、トイレの使用出来る存在、英語

トロピカルスター号のサンデッキにて、右側が筆者(青木)

五月二十三日、坂出市で開かれたした日本女医会総会におきまして、三神名誉会長から熱意をこめて会議の成功をとの願に、ご出席の皆さま方から心強いご声援をいただき、私も新たな感慨とともに鋭意準備に努力致しております。

総会終了後、皆さま方にサーキエラーと寄付依頼書を送らせていただきましたが、ご覧いただけましたでしょうか。ご寄附は今年末までを期限として予定させていただいておりますが、何卒ご協力下さいませます。よろしくお願ひ申し上げます。

なお論文のご提出をお待ち致しておりますが、運営全般についても、アイデア、ご意見をぜひたくさんお寄せいただきますようお願い申し上げます。

日本女医会会長 山崎倫子
組織委員会委員長 佐藤千代子
会員各位

カルリブ海クルーズとマイアミ

広島支部 青木豊子

の音色、人々のくつなくない大らかな表情と心(日本はいつの間にか終戦後四十五年の間に米国的になつて来たのだと思つた)に接して、少し日本に近づいたような気持でホッとしたようであったのは私のみではなかった。皆の表情にくつろぎが見られた。空港に迎えに来たバスは、またこれも日本とよく似た立派なものであった。また一同ほつとしてアレキサンダーホテルに向った。ホテルはリゾートホテルで広い広いもので四、五人が宿泊出来る、炊事も出来る、冷蔵庫もシャワーのある浴場も二つ、ベッドルームも二つあるものであった。窓の外には東西に海が見えてすばらしい眺めであるがシーズン・オフのためか、もうマイアミは米国の人々から遠ざかっているのか人影もまばらであった。

翌日は朝早くカリブ海クルーズに出るといので、ガランとした広い部屋で早くからベッドに入った。翌日早起きして、船にて朝食、昼食、夕食もするというのでバスで出かけた。バハマ諸島は外国なので出国の手続きをして乗船(トロピカル・スター号)した。船内や港には

免税店もあり一応外国に出かけるという気分になった。船室を二つもらってベッドもあり、甲板にも、食堂にも、遊戯室(ゲー)にも自由に行けるようになっていた。

朝食はバイキングでアメリカンスマイル。カリブ海は波は静かであるが、うねりは大きくあり、瀬戸内海に比べて広く水平線ささぎるものはない。その昔、ポルトガル人、スペイン人が大西洋を手漕ぎで渡つて来たその勇気には感服する。

船内で昼食をすませているうちにグランドバハマ島に到着。バスに乗って島内の観光に出る。バハマは一九七二年に独立した事になっていて、今のところ産業としては木材業、二番には観光で少し石油産業もあるが大部分は米国の依存しているとのこと。飛行場はあるが大学はないので米、英、カナダ等に留学しているようである。言葉は英語、ゴルフ場は18ホールのもので二つ。診療所一つ、教会一つ、人口は四万五千、周囲は九十六マイルの細長い島一九四二年〜一九四五年の間にカナダ人が発見したこと。

またホテルには客室千室あり、のどかな、テンポのゆるやかな、別天地で気候も温暖、住民ものんびりして親切である。

バハマ諸島は七百余りの島よりなり住民のいる島はそれの中で二十六の島であるとのこと。私たちの上陸したグランド・バハマが最も進歩している。

今回の収益はグアテマラ女医会に寄付された。

今回は、国際連絡書記野本照子先生の代役としてMWIAに出席させていただきました。はじめてのMWIA出席でしたが、国内からご参加の先生方をはじめ諸外国の現場の先生方と意見の交換ができました。は有意義な経験でした。紙上をおかりしまして、日本女医会に感謝いたします。

メキシコ・ユカタン半島の旅

神奈川支部 森田和子

グアテマラでの国際女医会に出席した後、かねてからの憧れの地、メキシコのユカタン半島への旅をする機会に恵まれ、語学力堪能な中村西子先生、私の愚娘と三人で参りました。今回はユカタン半島の中でもここ数年世界中から注目されている高級リゾート地、カンクンとメキシコシティの二カ所を廻ることにになりました。

第一日は午後グアテマラを出発、夕刻カンクンに到着しました。長さ二十二キロ、幅四百メートルのL字型の中洲状のビーチ。カリブ海と湖の間に立つホテルゾーン、噂通りのゴージャスさにうっとり致しました。

翌朝目覚めると、空は眩いばかりの陽光、七色の光線がこの海に注いでいるのがお部屋のベランダからゆっくり眺めることができ、これ以上の贅沢はありません。ビーチに出る、大型のサンチェアに寝そべり日が一海の色をうつつろい眺め、珊瑚礁のマリンブルーの微妙な変化、白雲のなびく青空、そして白砂浜、そのハーモニー、ただ感激!! アク

倫理的問題、新生児死亡の代表は下痢と感染症という現実等、興味深く、というよりはショックをうけつつ拝聴させていただいた発表ばかりであった。

ヤング・フォーラム
Young Forum

四十歳以下の若い会員、非会員を中心とする会であり、毎回大会の折に参加者持ちよりの品々によるパザールもその活動のひとつになっている。

今回の収益はグアテマラ女医会に寄付された。

今回は、国際連絡書記野本照子先生の代役としてMWIAに出席させていただきました。はじめてのMWIA出席でしたが、国内からご参加の先生方をはじめ諸外国の現場の先生方と意見の交換ができました。は有意義な経験でした。紙上をおかりしまして、日本女医会に感謝いたします。

倫理的問題、新生児死亡の代表は下痢と感染症という現実等、興味深く、というよりはショックをうけつつ拝聴させていただいた発表ばかりであった。

ヤング・フォーラム
Young Forum

四十歳以下の若い会員、非会員を中心とする会であり、毎回大会の折に参加者持ちよりの品々によるパザールもその活動のひとつになっている。

今回の収益はグアテマラ女医会に寄付された。

今回は、国際連絡書記野本照子先生の代役としてMWIAに出席させていただきました。はじめてのMWIA出席でしたが、国内からご参加の先生方をはじめ諸外国の現場の先生方と意見の交換ができました。は有意義な経験でした。紙上をおかりしまして、日本女医会に感謝いたします。

アラング、スノーケリング等に興ずる若い人たちの姿を見ながら、心からリゾート気分を満喫致しました。

ホテルから車で約一時間半ほどの海沿いに開けたマヤ文明の遺跡トゥルムを訪れました。一五八八年この地に着いた探検家のグリルハルバをして「セビリアをも凌ぐ壮麗な町」と言わしめた、高さ十二メートルの断崖の上に立つカステイリョと呼ばれる城塞の跡、グアテマラのティカルの遺跡と異なり、ここでは大分崩れ、また生贅の捧げられたといわれる石の台のある神殿が数カ所散らばって建っていました。

トゥルムの帰路、マヤ語で「水の生まれる地」を意味する海浜公園シエルハを訪れました。深い入江には透明な水がたたえられ、まるで天然の水族館です。魚と一緒に泳ぎたわむれる子どもたちにおどろき感嘆しました。

それからインディオの末裔といわれている少数民族が暮らしている場所にも寄り着きました。洞窟のような所に一家が住んでおり、物珍しそうに私たちを見ていました。ガイドに断って貰い一緒に写真を撮りました。池の中で泳いでいた子どもたちにも声をかけましたが、はにかんで水から上ってきませんでした。実に純情素朴でした。ホテルへの帰り路のところどころにマヤ文明の遺跡の崩れかけたのが見られました。

豪華なリゾート地とも別れを告げ次なる目的地メキシコシティへ。

五月二十三日、坂出市で開かれたした日本女医会総会におきまして、三神名誉会長から熱意をこめて会議の成功をとの願に、ご出席の皆さま方から心強いご声援をいただき、私も新たな感慨とともに鋭意準備に努力致しております。

総会終了後、皆さま方にサーキエラーと寄付依頼書を送らせていただきましたが、ご覧いただけましたでしょうか。ご寄附は今年末までを期限として予定させていただいておりますが、何卒ご協力下さいませます。よろしくお願ひ申し上げます。

なお論文のご提出をお待ち致しておりますが、運営全般についても、アイデア、ご意見をぜひたくさんお寄せいただきますようお願い申し上げます。

日本女医会会長 山崎倫子
組織委員会委員長 佐藤千代子
会員各位

免税店もあり一応外国に出かけるという気分になった。船室を二つもらってベッドもあり、甲板にも、食堂にも、遊戯室(ゲー)にも自由に行けるようになっていた。

朝食はバイキングでアメリカンスマイル。カリブ海は波は静かであるが、うねりは大きくあり、瀬戸内海に比べて広く水平線ささぎるものはない。その昔、ポルトガル人、スペイン人が大西洋を手漕ぎで渡つて来たその勇気には感服する。

船内で昼食をすませているうちにグランドバハマ島に到着。バスに乗って島内の観光に出る。バハマは一九七二年に独立した事になっていて、今のところ産業としては木材業、二番には観光で少し石油産業もあるが大部分は米国の依存しているとのこと。飛行場はあるが大学はないので米、英、カナダ等に留学しているようである。言葉は英語、ゴルフ場は18ホールのもので二つ。診療所一つ、教会一つ、人口は四万五千、周囲は九十六マイルの細長い島一九四二年〜一九四五年の間にカナダ人が発見したこと。

またホテルには客室千室あり、のどかな、テンポのゆるやかな、別天地で気候も温暖、住民ものんびりして親切である。

バハマ諸島は七百余りの島よりなり住民のいる島はそれの中で二十六の島であるとのこと。私たちの上陸したグランド・バハマが最も進歩している。

	夕	午後	午前
20日(木)	歓迎パーティ	受付・登録開始	
21日(金)	日本女医会主催パーティ	一般演題・総会	開会式・特別講演・一般演題
22日(土)	フェアウエルパーティ (日本女医会総会懇親会を兼ねる)	一般演題・総会・閉会式	特別講演・一般演題
23日(日)	外国会員観光		
23日(日)	日本女医会総会		

理事会議事録

島内を一周し、植物園に立ち寄り、植物は全部日本より一廻り大きい。ハイビスカス、夾竹桃、ブーゲンビリア、青木、椰子、日々草、ポトリス、アサギ、(ポトルを洗うプラシのような形で紅い花)これだけは日本にはない花であった。

日時 平成4年3月28日(土)
場所 日本女医学会会議室

出席者 山崎、佐藤、白橋、野呂、青井、石原、稲生、白浜、中濱、二村、野本、橋本、平敷、小田、川田、佐々木、佐野、関口、田中、南雲、野沢、松井、丸茂、森田、吉崎、大原、土井
欠席者 三好、明石、栗原、小出、本多

評議員会議事録

中央大会に野本照子常任理事出席。
〈広報部〉 稲生常任理事
・3月10日、日本女医学会誌第一三〇号、原稿割付完了。
・3月30日、同誌初校打ち合わせの予定。
※山崎会長より、次回誌以降、原稿依頼執筆署名を理事会にて発表されたいとの要望あり。

理事会議事録

脳原基のプルキンエ細胞におけるソマトスタチン mRNA の発現 (in situ hybridization と免疫組織化学による二重染色法)の応用
以上六名
議事検討事項
一、第5回国際女医学会西太平洋地域会議について
本日理事会終了後開催。
佐藤副会長より募金趣意書について提案。
第22回国際女医学会グアテマラ会議に出席しての反省点を第5回国際女医学会西太平洋地域会議に反映させる。
組織委員会全体会議ののち、各部に別れて詳細検討。
二、平成4年度事業計画案及び予算案について
各部より提出された要望額について検討し、別紙のとおり決定。
三、定時総会、評議員会議議案について
理事の役割分担は次回4月理事会にて決定。
議題について
1 平成3年度一般会計収支計算案
2 剰余金処分案
3 平成4年度事業計画案
4 平成4年度一般会計収支計算案
5 第5回国際女医学会西太平洋地域会議について
6 次々期総会開催地について
四、第6回ワークショップについて
期日：平成4年6月27日(土)

場所 東京女子医大臨床講堂2
テマ「心身症」
第15回学術講演研修会について
期日：平成4年11月21日(土)
場所 京王プラザホテル
講師 西来武治
テマ 未定
六、平成4年度役員会開催日について
別紙とおり決定。
七、その他
(1)定時総会往復航空券申込について
申込用紙回覧、記入。
(2)故、平瀬文子理事葬儀に供した生花代一五、〇〇〇円を、理事全員より徴収(五〇〇円/一名)。
(3)日本女医学会追悼、寄贈について。
寄贈依頼のあった東京都婦人情報センターへ送付することを承認。
副会長(庶務部担当) 佐藤 石原、南雲、吉崎

議事検討事項

一、平成3年度収支計算および平成4年度予算案について
別紙資料に基づき検討し決定。
・評議員が定時評議員会に出席の場合、出席手当として一律一〇、〇〇〇円を支給する。
二、総会について
(1)評議員会および総会次第について
別紙のとおり決定。
(2)会務報告案について
別紙送達済み資料を検討し決定。
(3)第5回国際女医学会西太平洋地域会議組織委員会(本日理事会終了後、全体会議)
・国際女医学会議予算について
佐藤組織委員長
当初の予定予算二、七五〇万円を三、五〇〇万円に改定
募金目標額は一、五〇〇万円とする。
・募金依頼書について
会員、評議員、薬業会へ別紙資料の依頼文を添えて募金の依頼をする。
・学会代行会社について
学術部に一任。
(4)その他
・航空券申込締切り
航空券は申込者に書留にて送付代金は同封の振込書にて事務局に振込み。
副会長(庶務部担当) 佐藤 石原、南雲、吉崎

評議員会議事録

日時 平成4年5月23日(土)
場所 坂出グランドホテル(香川県坂出市西大浜北1-2-33)
午前10時30分開会
司会/石原幸子
社団法人日本女医学会評議員会開催に際し
評議員数 一一四名
出席者 五二名
記名委任数 二五名
白紙委任数 一七名
以上のとおり日本女医学会定款第27条の定足数に達し、評議員会が成立する旨の報告あり開会を宣す。
会長挨拶 山崎倫子
報告
一、会務および事業報告 吉崎喜美子
配布済みの資料にもとづき報告。
二、平成3年度特別会計報告 栗原久子
吉岡弥生賞基金会計
国際女医学会記念事業基金会計
年金会計
ルーベンゲン会計
以上について配布済みの資料にもとづき報告。
議長選出 松浦俊子
議長着席 井上柳子、加藤七五三子

議事

第一号議案
(1)平成3年度一般会計収支計算書
配布済みの資料にもとづき説明
原案とおり可決
栗原久子
(2)剰余金処分案
栗原久子
次期会計へ繰り越すことを原案
とおり可決
(3)監事選出の件
山崎倫子
本多三枝子監事辞任に伴い、後任監事として藤岡邦子氏を選出
承認
大原一枝
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。
第二号議案
平成4年度事業計画案
〈庶務部〉 佐藤千代子
会員増加推進
〈事業部〉 佐藤千代子
医療過疎地診療奉仕活動への助成
公衆衛生生活動
支部助成
荻野吟子賞
年金
ルーベンゲン
社会保険新報社への原稿協力について「月刊「いきいき」」
〈渉外部〉 佐藤千代子
国内および国際交流
〈広報部〉 佐藤千代子
機関紙の発行
橋本葉子
〈学術部〉 講演研修会

研究助成

ワークショップ
第5回国際女医学会西太平洋地域会議の日本開催(一九九三年)
以上原案とおり可決
第三号議案
平成4年度一般会計収支計算案
佐々木和子
原案とおり可決
第四号議案
第5回国際女医学会西太平洋地域会議運営について
佐藤千代子
期日 平成5年(一九九三年)
5月20日〜5月22日
場所 京都
原案とおり可決
第五号議案
次期及び次々期総会開催地について
山崎倫子
次期開催地 京都支部
次々期開催地 東京
原案とおり可決
閉会の辞
午前11時40分開会
議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の署名捺印。
平成4年5月23日
議長 長 松浦 俊子
議事録署名人 井上 柳子
議事録署名人 加藤七五三子

欠席者 三好、明石、小田、川田、小出、松井、森田、土井、本多
庶務報告 南雲理事
以下、別紙とおり報告。――承認
会計報告 二村常任理事
三分収支別紙とおり報告。――承認
各部報告 橋本常任理事
〈学術部〉
第6回ワークショップについて
日時 平成4年6月27日(土)
午後3時30分〜5時30分
場所 東京女子医大、臨床講堂
2(地下1階)
テマ「心身症」
演者および演題
1「現代社会と心身医学」堀口文(国際心身婦人科学会日本代表)
2「心療内科領域における心身症」牧野真理子(東邦大学、心療内科)
3「泌尿生殖器の心身症」大川玲子(千葉市立病院、婦人科)
4「心因による難聴とめまい」新井寧子(東女医大、第二病院耳鼻咽喉科)
第15回学術講演研修会について
日時 平成4年11月21日(土)
午後3時30分
場所 京王プラザホテル
講師 西来武治
テマ「医療の中の生老病死―臨床心理学の提言、現代医療に求める―長寿の中心の悩みと生きがい」(両方を兼併させたテマを依頼)

平成3年度 自然退会者

会員動静

入会会員(敬称略)

埼玉支部 武内未来代

練馬支部 須賀方子

東女医学内支部 穂和信子

神奈川支部 亀岡智子 島田栄子

愛知支部 渡辺のり子

石川支部 正島ひろみ

高知支部 奥谷文乃 田中十糸子

長崎支部 安藤浩子

三木 鈴 山口泰子

退会会員(敬称略)

北海道支部 成田久美 西原崇子

岩手支部 松居節子

宮城支部 鈴木孝子

栃木支部 細川モモ

千葉支部 山元清子

荒川支部 石井 昌

品川支部 橋元博子

渋谷支部 平賀恭子

東女医学内支部 今村里香

都下西支部 根岸和枝

神奈川支部 久城初江 平松和子

愛知支部 奥村律子

石川支部 梅田寛子

大阪3支部 南出 正

大阪5支部 西川潤子

大阪7支部 小林はる枝

大阪8支部 播野 哲子

大阪10支部 相良モト

和歌山支部 楠本幸子

物故者(敬称略)

秋田支部 伊藤玲子

大田支部 曾山文江

葛飾支部 芥川芳枝

杉並支部 福田 貞

東女医学内支部 平瀬文子

愛知支部 佐藤さみ

兵庫支部 大西寿子

広島支部 矢野ミチコ

支部	氏名	支部	氏名	支部	氏名
北海道	黒川美朝	世田谷	八木道子	新潟	津田晶子
"	富樫順子	豊島	小川弥江子	富山	品川アヤ子
"	中沢ミカノ	"	中川美智子	石川	池田章子
"	細谷静恵	練馬	天野恵子	"	内出みち子
"	溝口弘美	京	大田幸子	滋賀	野村鎮光子
青森	加福ツル	"	浦野純子	奈良	辻原潤子
岩手	新津純子	港	野田明子	大阪3	石原富士子
宮城	長谷川晃子	黒	佐賀歌子	"	高田高子
群馬	森喜代見	"	比嘉晶子	6	山中知佳子
埼玉	藤生由美子	"	八木杏子	7	井上希世子
"	松島裕子	学内	小川真紀子	9	半田ふみ子
栃木	原里佳	"	大池靖子	"	森口久子
"	吉満多鶴子	"	川本麻也	10	有光敬子
茨城	岩上妙子	"	黒島淳子	京都	宮本美保子
"	溝部達子	"	蓮沼智子	兵庫	竹村繁子
千葉	安西由紀子	都下東	小島美由紀子	"	吉保繁子
"	飛田真理	"	薄井紀子	和歌山	竹内けい子
"	藤井澄子	都下西	山本 杉	"	根来すまよ
"	堀英子	神奈川	蔵持静江	山島	濱田真世
大田	遠藤弘子	"	島本由紀子	岡	石瓶由紀子
"	小野寺多美子	"	田中富久子	香	笹木智子
"	小林深奈子	"	古橋悦子	福	矢島毛純子
"	中延美子	岡	中島愛子	崎	鹿丸尚君
北	武内英子	静	佐藤和澄子	井	大島律子
"	横内伸子	愛	加藤喜与子	計	鈴木喜与子
谷	柳内正子	"	鈴木喜与子		水谷理恵子
新	竹浦マツ子	"	山本ハルミ		上沢奈々子
杉	山本ハルミ	"	阿久津絹江		金井つな子
"	世田谷	長	戸塚昌子		
"	戸塚昌子	"			

集記

うつつとうしい梅雨もようやくあけようとしておりますが、皆様ごきげんよくお過ごしのことと存じます。変貌する社会そのものの昨今、会誌一三一号がおかげさまで盛りだくさんの内容で発行出来た事は何ともありがたい事に思います。

かつての塩田の町香川県坂出市での第37回定時総会は支部長松浦俊子先生の肝煎り、支部の諸先生方のお力で大成功裡に終る事が出来、何よりでした。今までになかった前夜祭の楽しい企画、記念講演の佐藤先生とは食事と共にし、質問の応酬にも機嫌よく答えて下さいました。また善通寺へ共に参加された朝倉先生は気軽に会員のカメラに入ってもらった等々、大変に和気藹々、四国ならではの観光の数々も至れりつくせりで、誠に結構づくめの総会でした。これらの事から会員はもちろん、地域や各界の方々へ日本女医学会の認識を深めて頂いた事を嬉しく思います。

三月八日から十三日までの中米グアテマラ市での第22回国際女医学会には日本から会員の参加は二十六名でした。会議出席コース十四名、会議出席とメキシコ三名、会議出席とカリブ海ニクルーズとデイズニワールド十二名。

標高一五〇〇メートル、人口一八万のグアテマラ市は中米の中心、

乾期の終りでジャカランタの花などの美しい最高の好季節でした。マヤ遺跡のそして織物で有名なグアテマラへはるばるとやってきた事は、すばらしかったの一語が実感でした。会議の事、その後のコースについては本文に諸先生方が詳しくお書き下さいましたが、少々補足させていたできます。

病院見学は野呂先生の行かれた病院の他に、②ルーズベルト病院、③Hospital Centro Infantil de Estomatologia など、いずれもテーマに添った小児の病院でした。私どもは、③に行きましたが、聾啞の指導、奇形の手術(特に兔唇)を見させて頂きました。花々に囲まれた平家建でした。

六月二十七日日本女医学会主催にて前会長三神美和先生の米寿祝賀会が新宿の小田急ハルクにて開催されました。お年を思わせぬ先生のお元気なお姿を一同たのもしく思い、あやかりたいと存じました。(稲生)

平成4年7月20日 印刷
平成4年7月25日 発行
編集人 稲生 襄
発行人 日本女医学会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
〒三九九八-0571
東京都文京区水道1-5-16
株式会社 金剛出版